

大正三年三月一日發行

十全會雜誌

第九十卷

第三號

(第九十八號)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第十九卷第三號)目次

○原著及實驗

●流行性腦脊髓膜炎血清治療。

於大阪衛戍病院
陸軍二等軍醫 加藤 錠 吉

○通信

●小野醇吉氏通信。●岡田申吉氏通信。●根布貞吉氏通信。●細川孝一氏通信。●表宣明氏通信。

○校內雜報

●十全會記念會館設立。●金澤醫學專門學校創立二十五年記念館建築及記念圖書購買費豫算費。●醫事集談會記事。●宮田、林兩教授送別及歡迎會。●弓術射初式の記。

○叙任及辭令

●內閣。●金澤醫學專門學校。

○人事

●死亡會員。●自宅開業。●轉居會員。●居所不明會員。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。

○廣告

●石川教授へ贈呈記念品釀金受領報告。
●宮田教授へ贈呈ノ留學記念品釀金受領報告。
●高山教授勤續二十年祝賀會寄附金。



六、臨牀症狀及血中「ワ」氏菌ノ證明脊髄液ノ透明又ハリノ透明者ニ對スル治療血清脊椎管内注射ノ效價等ニ由テ觀レバ恐ラク流行性腦脊髄膜炎ハ毒素ニヨル中毒的疾患ナルベシ。

七、本病原侵入徑路ハ血行ナルベシ。

八、菌檢索ノ場合ハ長ク孵窠内ニ藏スルヲ要ス。

九、本病流行時患者發生部隊ノ健康者三二〇名中一名ノ菌保有者ヲモ見出ス能ハザリキ。

十、血清療法以外ニ本病ニ有效ナルモノハ大量ノ昇汞注射ナリ其ノ他ノ水銀劑及ビ「サルワルサン」ハ毎回有效ナルモノニアラズ。

十一、昇汞注射有效ナルモノモ下肢ノ創痕ヲ貽サシムルコトアルガ如シ。

十二、注意周到ニ適當ナル療法ヲ施スモ本病ノ死亡率ハ二〇%ナ下ルコト殆ンドナシ、時ニ九〇%以上ニ達スルコトアリ。

十三、大阪衛戍病院ニ於テ十二名ノ患者ニ高野氏血清ヲ用キタルニ死亡率ヲ零トナラシメタリ。

十四、同血清ハ皮下又ハ靜脈内注射ヲナスモ其效顯著ナラズ然レドモ之ヲ行フモ有害作用ナシ。

十五、脊椎管内血清注射ハ偉大ノ效アリ、多クハ一二回ニシテ忽チ全治ニ至ラシメ、副作用ナシ。

十六、血清ノ注射量ハ二〇cc以下ニテハ其ノ效顯著ナラズ、脊髄液ノ穿刺量ノ多寡ニ拘ラズ血清注射量ハ所定ノ分量ヲ用キタリ。

十七、注射血清ハ體溫ニ溫メサルモ障礙ヲ認メズ。

十八、發病初期ニ血清ヲ注入スル時ハ甚ダ有效ナリ、稍時日ヲ經タルモノ

ト雖モ其ノ效ヲ奏スルコト確實ナリ。

十九、患者ノ脊髄液透明ナルモノニモ高野氏血清ヲ脊椎管内ニ注射セルニ忽チ無熱トナレリ、恐ラク抗毒免疫作用ヲモ稍高度ニ有スルモノナカラシ。

稿ヲ終ルニ臨ミ中館閣下ニ敬意ヲ表シ、本稿校閲ヲ辱フセシ我病院長西郷博士、多數ノ血液寒天培養基及ビ血清ヲ惠與セラレ且細菌檢査上ニ多大ノ教示ヲ玉ハリシ鳥居軍醫正及治療上ノ指導及便宜ヲ與ヘラレシ石川軍醫正ニ謹テ謝意ヲ表ス。(大正二年十一月稿)

附記 本論文ニハ症例二十四例ヲ詳述シ且ツ本症ニ特異ノ「ロゼガラ」様疹及血斑ノ寫眞圖及溫度脉表四例ヲ掲ゲラレタルモ遺憾ナガラ紙面ノ都合ニヨリテ省略スルコト、セリ謹ンテ原著者及會員諸氏ニ謝ス

(編輯部)

通信

●小野醇吉氏通信

(四十年卒業。海軍大軍醫。十全會宛)

茲に卒業後初回の予か近況を御報告するに方り謹て會員諸君の祝御健康併祈將來の御發展申候母校も諸先生の祝典追來博士教授増加し大に力強くも思はれ芽出度限りに御座候小生今の處先々健在然し在校時代より「ノート」

は嫌の方にて難多のものを購讀したものに候が「エンゲグウカントアルテ
デタン」の譬に漏れす不相變何ても、かんでも少々宛囑り居候然し今日の
處では同一科目を二箇年も專攻すれば何人でも小専門家たるを得るものと
自分で極て居る故餘り齷齪致さず候、蓋し學生時代には矢張り「ノート」を
充分咀嚼した方は得策に思はれ候。十全會雜誌は小生退校以來愛讀致居候
(但し餘り長い私信の如きは時に五行一度により下すとも有之)然れば大方
諸君の動靜も伺はれて一慰安たるを失はず候同級否卒業生諸君にして同誌
を購讀し居らるゝ方は甚だ少い様に思はれ候元より此の理由は不明に候も
回顧すれば明治三十年頃の同誌は諸教官の名論卓説等毎回紙面に溢れ仲々
賑々しかりし様思はれ候も小生等の卒業(四十年)頃から大に寂寞を感じる
様に相覺ぬ申候是も流行ものかは知り不申候も雜誌掛の諸君は各先生と豫
約され月を追て滿載せられんことを切望致候他の雜誌の轉載は特別のもの
を除くの外好ましくらず候。話變て何にするにも健康は第一なれども殊に
吾人醫師に於て切實に感しられ候斯ることは同感の諸君も多々有之と思ひ
候も然し人は病まされは健康の難有味を知らずまか至言に候、まは申せ小
生は少年時代より能く病む方にて某々恩師より君は多病丈けば才士となり
と弄はれしことも有之候今の處は先づ御蔭で息才に御座候

小生の母校去て以來の概歴一寸申上候軍醫學校半箇年餘海兵團約一ヶ年病
院半ヶ年餘要港部約一ヶ年水雷團一ヶ年、乘艦約二ヶ年、本國を離れては
「カムチアツカ」南岸、樺太東南岸、朝鮮南岸、北支那(大連より天津各方
面)中支那(上海より漢口各方面)等に出動見物致候此の間見聞して多少興
味を感じしことありつれど性來筆不精乍思其の意を果さず、嘗ては原稿紙
を貰ひ受け少し許り研鑽せしことを書て見たが訂正と追加に倦てトッ
／＼其の儘に致し居候始末何とも申譯無之候、又見聞録とか謂ふものは一
寸當てにならぬことも有之候凡て報告は何に限らず精査を要するものに候
て非常の忍耐と親切と筆豆との三要素を要し候之れにつけても毎々投書家

諸君には敬意を表して可然思考致候

舊臘浙江省杭州府へ出張を命ぜられ中支第一と稱する西湖の景も眺て参り
候同地には韓清泉、厲家福、湯爾和(母校出身)及錢(全上)其他石、陳、華、
濟等の諸君(日本官公醫署出身)に會し態々招待さるゝやら色々便宜を得
感謝致候御承知の通り韓君は浙江病院長で醫藥學專門學校長を兼ね令聞高
く厲君は浙江陸軍衛戍病院長の職に有之候又三十九年迄傍聴して居られた
王立才と申す人上海西門外に開業十一月末一寸訪問致候

小生は一昨年の支那第一革命には澎海灣方面に昨年の第二革命には當長江
方面に何れも出動致候今や大勢此處に治まり候て東洋平和の爲め慶賀の至
りに候因て本艦不日歸朝の事と相成申候

革命事件の爲め客年大西軍醫少監(母校出)磐手軍醫長として萩野中軍醫
(今大軍醫全上)嵯峨軍醫長として來支され大西君は舊臘歸港され萩野君今
や南支廣東方面に出動せられんとす同君の健康を祈る

本月は之れにて失敬致候尙今後は出精して本誌の紙面を汚し可申候
尙前記小生の見學せし方面に於て御發展御希望の方にて御質問も候らは喜
て御答へ可申上候敬具

大正三年正月二十一日

於支那上海

小野 醇 吉

●岡田申吉氏通信

(大正元年卒業。開業。十全會宛)

(前略)去一月一日金澤に歸り二日大聖寺にて種々の準備仕り六日敦賀に向
ひて一泊致し七日京都堂坂にて器械の購入をなし八日の特別急行にて都の
城に九日午後十一時着仕り候途申京都にて鷲毛降り寒氣嚴烈に有之候へし
も九州に入りて熊本にては其の暖き殊の外に御座候へき都の城に近づき申

し候處又々降雪北陸と異なるが如き觀を呈し申候も都の城にては又々無之候都城には二日滞在仕り十一日同地なる山之口村字天神伊藤與三吉事務所に參り其翌日より診療に従事致居候恰も十二日より櫻島爆發鳴動致し地震頗數生きたる心地不致天運に任せ申し候當郡は北諸縣さて鹿兒島縣に最も接近致し櫻島を距る直徑七里にて小生の仕事たる千三百尺の高さを有する青井岳の絶頂よりは毎日黒煙の上るを快望致され候當所に勞働致居人間は總數千人と目され候最も青井岳の東西に分れて墜道を作り居り東西の人數に御座候細別すれば鐵道院出張所稻葉組及其配下たる伊藤各配下たる種々のものごもの寄り集りに御座候今日迄の患者數八十七名有之外科内科等諸種の疾病多々有之候、工夫又は土方のみに無御座候、子供さては賣春婦に至る迄にて毎日繁忙を極め居り候今日にては常に九州を生れ故郷と存じ北陸の天地を殆ど忘れ居り候へども唯諸先生の御芳顔及御診察の御有様臆底に往來致居候

墜道工事は東西とも殆ど千五十尺計進行致居り候晝夜兼行従事致居り候其他河川等の爲め石屋工事等多く又工夫の原籍を分ては全國に渡るこゝ存居候例之金澤人夫越中人夫、京都大阪組に九州北海道朝鮮人等に御座候此地一帶寒氣凜々雪を見ずして鐵氷憂々肌をつんさく程に御座候總ての人間は粗食に甘じ魚類さては到底見出すこゝ叶はず候然し肉類は猪も有之不足は不致申生命を保ち居り候都の城は商業繁華にて宮崎よりは人口も多きやうに御座候も當地よりは六里を隔り申候毎日自働車二臺往復致し馬車は數分間をきに通ひ居り交通の便甚宜數有之候新聞等も自州新聞の如きは六頁にてやゝ驚き居り候宮崎には神武天皇様の御社有之まかにて一度參詣仕度所存に御座候未着早々何も日に映じたる者さては無御座候へば又々閑暇に任せ御耳に達したきと存じ居り候(後畧)

一月廿八日

宮崎縣北諸縣郡山之口村字天津

岡田 申吉

●根布貞吉氏通信

(大正元年卒業。開業。十全會宛)

(前畧)私儀去一月上旬早々飯宅仕り暫時むたゝ致り候家事の都合上止むなく福井病院の方を辭し表記の場所に去一月廿日頃に移り申候當地には只今醫なき爲め只むたゝゝ身体のみ勞して其日を送り居候漁夫の事さてか胃痛頗る多く俗にむしかぶり二三日胃部激痛で以て直に治るもの又荒屋、室邊には小兒氣管支加答兒及百日咳流行仕り候

二月二日

石川縣河北郡内灘村字大根布

根布 貞吉

●細川孝一氏通信

(大正二年卒業。樂山堂病院醫。十全會宛)

(前畧)兎烏勿々たり流水も只ならず恩惠深き先生の膝下をはなれ上京いたせしより最早四十餘日願みて茫然たる次第に御座候今左に樂山堂病院現況概略を申述可候彼は延引の段何卒ゝ不惡御諒察下され度奉懇願候

院長	醫學博士	宇野 朗氏
副院長	醫學博士	中原德太郎氏
醫長	ドクトル	村上 幸多氏
(洋行中)	醫學士	前防 玄道氏
醫員	十八(定員)	

醫事出身者九人、開業試驗合格者一人
九人中 熊本醫事出身者

二

仙台 全 一

岡山 全 二

千葉 全 二

金澤 全 二

(四十一年度卒業生服部暢介君昨年度卒業生齊藤君)

研究 生 一 (小生)

傍 觀 生 一 (仙台醫專出身者)

介 補 一

マツサージ 二

院長診察 金曜 (午前)

副院長診察 月、水 (全)

醫長診察 火、木、土、(全)

金曜午後、日曜午前 (整形外科)

火、水、木曜午後 手術

月、土曜午後も臨機手術有之候

外來患者は一日大低百乃至百二、三十

入院患者六十名計 (病室五十 傳染病室三)

當院は一般外科、整形外科泌尿器科専門に御座候従つて患者も外傷、皮膚症、柳病、腫瘍、諸種關節痠痛を主とし耳鼻咽喉の患者極めて稀に内科的外來患者は皆無と云ふも過言には御座なく候 光線は其規模大にして診斷上治療上に盛に用ゐる居申候

各醫員は前記三氏(院長、副院長、醫長)の命に従ひ患者患部の處置をいたすものに御座候

前述の如く半日に百有餘の患者有之候故非常の多忙にして既往症なき極めて單簡なるものに候研究生としてのなす所は醫員と殆ど相等しく給料手當は左の如くに御座候

醫員月給 十五圓 外晝飯給與
研究生 月手當六圓 全

當院には一覽表なるもの御座なく只概況を述べる次第に御座候別紙入院規則一葉相添申候敬具

東京淺草區小島町樂山堂病院

一月十二日

樂山堂病院入院規則

一本院ニ入院ヲ請ハル、ニハ一應醫員ノ診察ヲ受ケラルベシ

一入院ノ承諾ヲ得タルニハ事務室ヨリ入院證書用紙ヲ申受ケ式ノ如ク記入調印シ入院ノ際保證人同伴ノ上差出サルベシ

但保證人ハ二名トシ一名ハ父兄親族ノ内他ノ一名ハ東京市内在住丁年以上ノ戸主ニ限ル若シ保證人死亡或ハ轉住改氏名改印等ヲ爲シタルハハ届出デラルベシ

一入院中ハ藥餌其他ノ費用トシテ規定ノ入院料ヲ納付セラルベシ

但藥餌ノ外スーブ牛乳又ハ氷等ヲ要セラル、モノハ別ニ其代價ヲ申受ケベシ

一入院料ヲ分チテ左ノ五等トス

特等 一日 金參圓參拾錢

一等 一日 金貳圓五拾錢

二等 一日 金貳圓

三等 一日 金壹圓八拾錢

四等 一日 金壹圓貳拾錢

但特等一等二等及ヒ三等ハ一室一人入四等ハ一室二人入内一室ハ三人入

隔離舍 一日

但一室一人入

金壹圓八拾錢

一入院料ノ等差ハ病室食餌器具等ノ異ナルノミニシテ治療法ニハ差引アル
トナシ

一病室ノ等級ハ患者隨意ト雖モ病症ニ依リ醫員ヨリ指定スルコトアルベシ

一外科手術ヲ施ストキハ其大小ニ應ジ相當ノ手術料ヲ申受クベシ

一病狀ニ依リ過多ノ綑帶品ヲ要スルトキハ別途其代價ヲ申受クベシ

一特別ノ診療ヲ要スル場合ハ相當ノ料金ヲ申受クベシ

一病症ニ依リ特ニ附切り看病婦ヲ要スル場合若クハ患者ノ需メニ應ジ看病婦ヲ附添ハシムルトキハ雇使料一日金五拾錢傳染病ニ罹リタルモノハ金七拾錢ヲ拂ハルベシ

一入院料看病婦料ハ入院退院ノ日トモ午前午後ニ拘ハラズ一日ニ計算シ又外伯セラレモコトアルモ差引クコトナシ

一患者攜帶ノ附添人ハ其宿所氏名年齢及去就ノ月日ヲ事務室ニ届出テラルベシ來訪ニ宿泊スルトキ亦同シ

二人入以上ノ病室ニ於テハ患者一人ニ付附添人一人ノ外之ヲ許サズ且不時ノ來泊ヲ謝絶ス

但病狀危篤ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

一入院料始め在院費ハ毎月十五日廿五日(以上ノ定日休業日ニ相當スルトキハ其翌日)ノ三回ニ自用ノ牛乳スープ氷等ノ代價ハ一ヶ月毎ニ納付シ退院ノトキハ其當日迄ノ費用ヲ總テ即納セラレベシ

東京市淺草區小島町七十三番地

明治四十五年五月改正

樂山堂病院

電話 病室用 下谷一五七七番
事務用 下谷一五六二番

●表宣明氏通信

(明治四十四年卒業。開業)

少々京都大學講習の模様を一寸御報道いたし候私の出席いたし居り候科目は眼科、耳鼻咽喉科及び皮膚科にて候

眼科は講師も手術も小柳助教擔任いたされ若き人なれども仲々に黒人を見うけ申し候、火金の午後一時より手術之れあり候が中に白内障手術はいつも二三人之れあり候、殊に東京の河本先生と異り手術はゆる／＼と成し下さるゝ故に十分に見學に相成り申し候耳鼻科の方は講師は和辻教授の擔任にて仲々に面白くやり下されいとも腦裏に徹底するやうに覺ゆ申し候手術は先生と助手ととして施行せられ居り候、毎週火曜より土曜まで毎日午後一時より手術之れあり此の科だけでも仲々にせわしいわけにて候皮膚科は松浦教授にて之れは専ら外來患者についての實地指教にて「ボリクリ」のみにて候、殊に先生は皮膚科の方が得意らしく仲々に綿密に教はられ申し候殊に驚きたるは梅毒患者の多い事にて毎日六七人は「ワツセルマン」反應試驗のため血液を取られ居り申し候殊に女子の月經すらないやうなほんの幼女に此の事あるとばまことに私等の如き田舎者の驚く次第に候、而して患者は東京に比しては較々少なけれども仲々に多い故に十分に研究出來て喜び居り候

されば京都大學だけでも夕方まで相かゝり、仲々に市内の開業醫の所へ行くゆゑも之れなく、當大學は一般に頗る開放的なるは殊によるゝばしき事に候、即ち大學は營業の目的でなく指導のために候

二月十一日

在京部
表 宣 明



校內雜報

●十全會記念會館設立

吾ガ金澤醫學專門學校ハ明治二十一年四月第四高等中學校醫學部トシテ授業ヲ始メ翌二十二年第一回ノ卒業生ヲ出シテヨリ今ニ至ルマデ其數實ニ一千六百三十八人ニ達シ尙之ニ本校ノ前身タル元石川縣甲種醫學學校ノ出身者ヲ加フルトキハ吾ガ校友ノ勢力寔ニ侮リ難キモノアリ而シテ吾ガ十全會ハ明治二十八年ニ起リ校友ニシテ間々會盟ニ洩ル、者ヲ別トシテモ今ヤ校ノ内外ヲ合セ之ニ加ハル者既ニ千四百有餘人ヲ算ヘ會運年ヲ逐フテ益々盛大ナラントス然ルニ本會ニハ從來會員ノ會合ニ充ツベキ適當ナル會館ヲ缺キタルヲ以テ常ニ幾多ノ不便ヲ感シ夙ニ之ガ設立ノ希望ヲ有シタル者亦尠カラザリシモ未ダ其時運ニ際會スルコト能ハザリシガ今ヤ小立野臺上四望豁然大氣清鮮ナル處ニ新築ノ校舍略ホ竣工ヲ告グルニ際シ時恰モ開校滿二十五年ニ丁リ來ル五月十一日ノ記念日ヲトシ其祝賀會ヲ開カル、ノ舉アルヲ聞キ吾ガ十全會亦其ノ絶好ノ記念事業トシテ會館設立ノ業ヲ起シ以テ多年ノ宿志ニ酬ヒント欲シ先ツ協議會ヲ開キテ之ヲ商量シタルニ滿場ノ等シク賛成スル所トナリ茲ニ愈々其ノ計畫ニ着手スルコト、ナリヌ

思フニ此會館タル其ノ結構ノ華美ニ流ル、コトハ固ヨリ之ヲ避ケサルベカラズト雖モ還タ本會ノ公堂タルニ愧ザザルノ面積ト設備トヲ具ヘ以テ内外會員ノ満足スルモノタラザルベカラザルヲ論ナシ且ツ本會ハ時ニ賓客ヲ招キ或ハ母校訪問ノ特別會員ニ宿所ヲ給シ特ニ此ノ際成ルベク多クノ記念圖

書ヲ購入シ在來ノモノト併セ其ノ閱覽所トナシ其他時勢ノ要求ニ應ジテ相當ノ設備ヲナシ或ハ愉快ナル讀書室トナシ或ハ清新ナル娛樂室トナシ師弟膝ヲ交ヘ同人肘ヲ擁シテ相談スルヲ得シメ又校內會員ニ向ツテハ學校ノ訓育ト相俟チテ醇良ナル校風ヲ馴致スルノ用ニ供スベキハ頗ル喫緊事ニ屬シ會員多數ノ希望モ亦實ニ此ニ在ルヲ信ズルヲ以テ試ニ建築及設備費ヲ計算シタルニ少クトモ六千有五百圓ヲ要スルヲ知レリ然ルニ目下吾ガ十全會ガ有スル資金ハ僅ニ貳千金ニ過キズ此ノ内五百圓ノ基金ヲ殘シ他ノ壹千五百圓ハ舉ケテ此ノ計畫ニ投スルコトハ亦既ニ協議會ノ議定スル所トナリタレトモ爾餘ノ五千圓ハ廣ク之ヲ吾ガ校友ノ愛校心ニ憑ヘ以テ其釀出ニ俟タザルベカラズ

夫レ學校ト校友會トハ表裏相濟シ長短相補ウテ以テ教育本來ノ目的ヲ完ウスル所以ニシテ父ノ嚴母ノ慈以テ之ニ比スベク陰ノ潤陽ノ燥以テ之ニ譬フベシ徒ニ秋霜烈日ノ存スルアリテマタ春陽ノ煦々タルナクンバ萬物何ヲ以テカ生育セン若シ吾ガ記念會館成功ノ曉ニ於テ之ヲ中心トシテ吾ガ母校ノ内外ヲ打ツテ一丸トナシ和氣謐々タル家族の情趣ノ團樂ヲ見ルコトヲ得バ吾人ノ處世ト修養トニ資スル所ノモノ決シテ鮮少ナラザルヘク是レ即チ煩瑣ナル約法ノ下ニ動モスレバ隔靴ノ感ヲ免レザル學校經理ノ一大痛癢ヲ醫スルモノニシテ校友ノ力ニ依リテ斯クノ如キ設備ノ完ウセラル、ハ亦以テ吾ガ母校ノ矜持トナスベシ

抑モ吾校友ハ現在其ノ何レノ職務ニ執掌スルヲ問ハズ皆一日モ母校ノ恩眷ヲ懷慕セザルハナク母校ノ發展ハ即チ吾人ノ名譽ニシテ亦タ吾人ノ威力ナルヲ知ルサレバ今幸ニ本校ニ緣故アル吾ガ十全會員及其他有志諸君ノ翼賛ニ依リ本會這般ノ計畫ヲ完成シ無償僭受ヲ期シテ之ヲ學校ニ寄附シ以テ之ガ利用ト維持トナ計ルハ豈ニ吾等校友ノ責任ナラズヤ希クハ諸君奮テ此ノ舉ニ賛同シ吾人ノ微思ヲシテ遂クル所アラシメヨ

大正三年二月

●金澤醫學專門學校創立二十五周年記念

館建築及記念圖書購買費豫算費

一金六千五百圓

記念館費

内譯

金五千圓

建築費

但木造二階建約五拾坪

金壹千五百圓

記念圖書購買及設備費

附記 上記の如く本會に於て紀念館設立することに相成候に付き本會員及本校出身の諸兄は奮て御賛助あらんことを希望仕候尙ほ發起人諸君は可成五圓以上。一般賛成諸兄は可成參圓以上の御賛助を仰ぎ度希望に御座候

●醫事集談會記事

金澤病院醫事集談會演說自抄は雜誌部委員の手落にて未だ全部落手せず今茲に落手せるもののみを掲げ他は後誌に譲る事とせり記載の遅延せしことを演者并に讀者に謝す

▲第七回金澤病院醫事集談會

第二席 胃癌に於ける胃切除術の一例

下平 用彰

患者は四十一歳の農婦にして本年(大正二年)二月頃より胃障碍の症狀を呈し來り六月頃より上腹部に甚だ移動性の硬固なる腫瘤を觸れ爾來全身の榮養日に衰へ九月下旬金澤病院に入院するに至りたる者なるが演者は十月十八日之に手術を施し幽門の下部に生じたる腫瘤を狹窄せる幽門と共に全く切除せり術後の経過は頗る佳良にして患者は其後十八日を經て退院せり演者は剔出せる腫瘤及其顯微鏡的標本を供覧したるがそは硬性癌腫なりと云へり

演者は最後に揚言して曰く今や所謂内科的疾病にして眞に外科的療法を必要とする者益々多きを加ふるに拘らず吾人は其機會に接するこの尙甚だ多からざるは寔に慨嘆の至りに堪へず胃癌に於けるが如き實に其一例なり希くは内科醫諸君の若し斯の如き症例に遭遇するときは濫りに姑息の療法を試みず時機を失せずして先づ外科醫と協商審議し以て治療の方針を定められんことを、是れ實に吾人醫師の當然取るべき道にして余は人道の上より觀て之を切言する者なり云々。(自抄)

第五席 頸肋骨の一例

佐崎 伊久

頸肋骨は第七頸椎に發生すること尤も多くして敢て稀有の者にあらず解剖及臨床上に於ける統系的觀察に依れば二十才前後の結核質の婦人にして而かも左側に發見すること多し其形態及發育の程度は一様ならず周圍軟部即ち筋、血管、神經との解剖的關係殊に血管神經は常に頸肋骨の外側を通過するを以て特有とす故に臨床上に來るべき症候は鎖骨上窩に現る腫瘍(頸肋骨)並此腫瘍に因する血管、神經の壓迫現象なり然れども必發にあらずして全く無障礙に經過すること又は或種の誘因にて突然危害を醸すことありと云ふ

實驗の一例は頸部結核性淋巴肺炎を有する十八才の女子にして全鎖骨上窩に於ける胡桃大の表面稍々滑澤硬固にして移動せざる腫瘍及鎖骨下動脈、膈神經叢の輕度の壓迫障礙を認めたり尙「レントゲン」光線に依り全第七頸椎の側方四「センチメートル」長さを有する恰も第一肋骨に似たる一管狀骨にして其尖端遊離して所謂「グルーベル」氏分類の第二度に一致すること確めたり終りに數症鑑別に付て述ぶ。(自抄)

▲第八回金澤病院醫事集談會

第三席 糖尿病の統計的觀察

近藤 清吾

糖尿病者七十六名につきて症候、合併症、診斷豫後、経過につきて其概畧を述べたり。其主なる点を列記せば左の如し。

一、症候 糖尿の外糖尿病固有の臨床的症候を全く欠如するもの屢々あるに注意すべきことなり

二、合併症 神經衰弱様症候を大部分の患者に認めたり。余は糖尿病の食事療法前に胃内検査を推賞す、糖尿病性昏睡一人もなし

三、診断 尿の精検により糖尿病を可成初期に發見すべきは勿論なるも一時的糖尿と真正の糖尿病とは可成的確に區別するを要す

四、豫後 七十六名中死亡せるもの二人、(二人は肺結核)一人は狭心症の合併)

五、経過 糖尿病の初發症候を認めてより三十年を経過するもの二人。一年未満のもの最多なりき。急性糖尿病と見做すべきものなく昏睡者もなし

第三療法

糖尿病の療法には種々ありと雖ども要するに現今の程度にては食餌療法の一点に歸すべきか。藥物中阿片劑及び「アグリン」の一時的効果あることあり。臟器療法につきては多數の實驗なきも要するに未だ著効を期し難きが如し。食餌療法としては余等は好んでノールテン氏の燕麥療法に倣へて諸種の含水炭素療法を試みて効果を収めつゝあり。余は又患者の神經精神上に注意し慰安を與へ克己、超然の精神を養成することに殊に注意を怠らず。(自抄)

▲第九回金澤病院醫事集談會

第三席 脂肪肥胖症の臨床的研究

近藤清吾

余は最近四年間に於て金澤病院内科二部(肺癆及神經病を除ける内科患者)の全患者六千六百七十一名中脂肪肥胖症患者百〇七名を得て之が臨床的調査を試みたり左に之を概括せん(但し其内三十四名の真正糖尿病患者あり。余は主として糖尿病者を除ける七十二名につきて其成績を掲げん)

一、脂肪肥胖症の數。當科患者六千六百七十一名中脂肪肥胖症百〇七名

(一、六%)を算す

一、脂肪肥胖症は女子に多し

一、脂肪肥胖症は月經閉止期前に發するもの多し

一、脂肪肥胖症は市町住居者(七三、六%)及非勞働者(八五、八%)に多し

一、遺傳は二五、五%に之を証す

一、脂肪肥胖症百〇七名中真正糖尿病患者三十四人の糖尿あるもの十二人あり

一、嗜好品中酒を愛用するもの三一、九%。男子のみの統計にては六一、七%の多數に上る、甘味は八、三%に之を証す

一、貧血の稍著明なるもの八名(一一、一%)あり

一、食慾は大多數に於て又は普通以上なり

一、多尿を訴ふるもの三〇、五%、口渴を訴ふるもの一一、一%

一、浮腫を訴ふるもの一九、四%にして主として勞作後下肢に來るもの

一、症狀として最多なるものは心亢(四四、四%)にして頭痛頭重は第二位に位し其他腰痛、眩暈、肩癱、知覺鈍麻、不眠、呼吸促進、耳鳴、胸内苦悶、嗜眠の順序なり

一、合併症としては胃症比較的多し、其他著明なるものなし。(自抄)

▲第十回金澤病院醫事集談會

第一席 先天性梅毒(?)に依る右眼筋全麻痺及左眼

外直筋麻痺の一例

源明藤吉

患者 四十一歳 野田某

眼筋癱瘓はグレフェ氏の報告によりて知る如く其の原因の過半数は梅毒から來る者で有る、然し先天性の梅毒から來る者は極稀で有る小川さんの例後其の報告は見ない様で有る本患者は全く先天性梅毒によること云ふ事が出來ぬが既往症及び其の他の關係よりして見る時は先づ之れより他に考へ得られないだろと思ふ而して近僅一ヶ月餘にして上眼瞼下垂瞳孔調節不能

眼球運動の全不能が四回の楊表「パラフィン」の注射と「サルバルサン」二回の注射に依りて立派に治癒した事が大分面白い事で有る勿論之の間眼筋の按摩法、感電電流、及び「ストリキニネ」の注射等もした、然し其の主効は之れ等驅梅毒法による者と思ふ、要するに先天性梅毒が上眼窩破裂部か或は其の近部に生じてそれが之れ等神經に障害を及ぼし而して驅毒法により腫物が漸々小さく成り其の障害が除かれるに及び癒つた物では無いだらうかと思ふ。

第二席 食慾の本態并に食慾と胃の官能との關係

近藤 清吉

食慾の本態につきて諸家の説を畧述し、食慾と胃の官能との關係に就きて臨床的調査を試みたり。其結果は食慾の良否は胃官能に對し絶体的に一致するものにあらず、食慾と酸量、醗酵素量及運動力とを比較するに其約二〇%は全く一致せず、殘餘の約八〇%は比較的一致するの成績を得たり。

●宮田、林兩教授送別及歡迎會

北國の天地冬眠より覺めて春色新たり時維二月二十一日午後此度渡歐の途につかせるも宮田先生の送別と新に歸朝せられたる林先生の歡迎とを兼ねて我十全會講話部主催となりて愛でたき會合はなりぬ時鐘二点を報ずれば會員已に堂にみつ。

一、開會の辭

會長 高安先生

一、送別歡迎の辭

主催者總代 村山眞平君

一、全

學生總代 青山繁君

一、答辭

宮田先生

一、全

林先生

午後三時餘興に移り茶菓は分配せられぬ。

一、バイオリン合奏(君が代、校歌)

二、三、四年有志六君

一、琵琶(送別)

吟、三浦君 彈、田中君

一、劍舞(立志)

舞、田村君 吟、三浦君

一、尺八合奏(みだれ)

二年有志五君

一、劍舞(本能寺)

舞、吉野氏 吟、川島氏

一、琵琶(櫻狩)

吟、佐野君 彈、田中君

一、劍舞(備後三郎)

舞、川島氏 吟、吉野氏

一、尺八、バイオリン合奏(千鳥の曲)

三、四年有志三君

一、劍舞(捨子)

舞、吞龍君 吟、佐野君

時將に五時半高安先生再び壇上に登りて閉會を宣し兩先生の萬歳を三唱し一同之に和せば會場を飾れる數旆の旗爲めに搖ぐ。只設備不行屆會員諸氏の誠意を表するに足るべきものなかりしは深く謝する所也、終に餘興に出演せられし諸氏の厚意と勞とを多謝す。(二月二十三日、中西生記)

●弓術射初式の記 (二月十一日)

大正三年二月十一日わが弓術部は吉例により本校控室なる道場に於いて射初の式を舉行せり。先づ式場には校章を染め出せる幔幕を引き廻はし天つ晴れの勇士が弓矢揃へて足ざりゆたかに出て來る處は富士の裾野の陣營かそぞろに當時の卷狩を偲ばしめさて落ち着き拂つて立ち上り渾身の力を腕に込めてきつて放てば弦に聲ありさらぬだに引き締れる空氣を壓して矢に氣ありまた概ありぬ。以て今年に於けるわが弓術部の意氣の程をも推し知られたり。この日の出演諸氏は左の如し。

藤野、山田、毛利、三ッ野、遠田、高橋、奥澤、中村、朝賀、野村、奥野、越野、茶野、小川、中田、吉浦、八島、近藤先生、加藤先生、八島師範、

式後茶話會を開き各自が今後に於ける弓術部に對する抱負を吐露し希望を
開陳して午前十時解散せり。

叙任及辭令

●内閣

大正三年一月三十一日

任金澤醫學專門學校教授

叙高等官六等

六級俸下賜

福士政一

●金澤醫學專門學校

一月三十一日

金澤醫學專門學校醫學士 田中吉左衛門

衛生學及細菌學授業補助ヲ囑託ス

月手當金貳拾圓給與

法醫學副手兼務ヲ命ス

自今月俸金貳拾圓給與

病理學副手 北川勝末

二月十日

醫學得業士 佐崎伊久

耳鼻咽喉科學理論及臨床講義並外來患者臨床講義ノ講師ヲ囑託ス

月手當金貳拾圓給與

二月十二日

依願囑託ヲ解ク 化學及分析學實習授業補助囑託 松岡 協

二月二十一日

化學及分析學實習授業補助囑託ス
月手當金拾六圓給與

金澤醫學專門學校藥學士 和田源五郎

人事

●死亡會員

新潟縣三島郡出雲崎町

清國仙頭博愛醫院

高橋常作 (三)
千葉茂 (四)

●自宅開業

滋賀縣甲賀郡水口町

和歌山縣東牟婁郡七川村大字西川

朝日 昊 (四)
南茂吉 (全)

●轉居會員

熊本市北千反畑町六番地

朝鮮全羅南道長城囑託警察醫

吳海軍病院內

滋賀縣甲賀郡水口町

和歌山縣東牟婁郡七川村大字西川

戸田伊代治 (四)
西尾袋抱 (三七)
長井運男 (八)
朝日 昊 (四)
南茂吉 (四)

敦賀歩兵第十九聯隊醫務局
静岡縣濱名郡笠井町神谷醫院
新潟市上大川前通六、竹山病院

角田 眞一 (四)
志村 猪藏 (四)
佐藤 彌一郎 (大元)

●居所不明會員

御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候
但し姓名の上に◎印あるは最近に不明となりたる會員諸君なり

舊 住 所

東京芝養生園
大阪市東區京橋三丁目
長野縣上水内郡長野町
富山縣魚津町
石川縣羽咋郡高濱河崎醫院内
石川縣能美郡小松町字京町
朝鮮京城旭町二丁目
軍 醫
豫備工兵第九大隊
兵庫縣神戸病院
門司市西川端町二丁目
獨乙國ミューンヘン市
高知縣高岡郡須崎古市町
近衛野砲兵聯隊
新潟縣中頸城郡新井町
兵庫縣柏原病院
久留米衛戍病院附

園崎 純次郎 (二)
森岡 惣太郎 (五)
◎須田 嘉三郎 (三)
◎前田 豐作 (全)
◎小林 五佐 (全)
松村 四郎 (三)
富久 尾溪 (全)
宮崎 稻作 (全)
西村 順八 (三)
本城 熊三郎 (全)
戸井 源吾 (全)
松久 祐馬 (全)
藤井 茂 (全)
木下 節三 (全)
鈴木 政治郎 (全)
吉武 安男 (全)
◎内海 友七 (全)

北海道小樽慈惠病院
廣島縣高田郡吉田町
福井縣立病院
札幌北一條四丁目

東京芝神谷町

東京市神田區駿河臺井上眼科病院

東京市芝區田村十九富田三十郎方

篠山歩兵第七十聯隊附軍醫

伊豆國伊東町玖須美

新潟縣長岡市長岡病院内

新潟縣長岡市長岡病院内

鳥取市鳥取病院

大阪市北區絹笠町同生病院

金澤市弓ノ町九

廣島縣加茂郡中黑瀬村丸山

北海道釧路釧路港得濟病院

會 告

●自大正三年一月廿四日校外特別會員會費納付調査
至全 年二月廿六日

金額 期 限 氏 名
金壹圓 大正二年度分 重本 儀介君

◎江 藤 幹 (元)
瀧澤 武藏 (四)
五井 康平 (全)
楠 正之 (全)
松本文二 (全)
河崎 正雄 (全)
河合 勝 (全)
◎吉田 繁治郎 (全)
◎池谷 運平 (全)
◎藤井 最正 (四)
◎穗刈 光平 (全)
◎折笠 圓隆 (三)
三上 儉次 (四)
荻野 鶴治 (全)
◎室田 茂人 (全)
◎須藤 卯太郎

金參圓	自大正二年度三ヶ年分	辻岡	律君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	白田重	其君
金貳圓	自大正三年度三ヶ年分	東義	雄君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	大井良八	郎君
金五圓	自大正三年度二ヶ年分	後藤義	賢君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	鈴木	彌君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	矢吹	清君
金參圓	自大正三年度二ヶ年分	松崎清	博君
金壹圓	自大正三年度二ヶ年分	松川甫	恭君
金壹圓	自大正三年度二ヶ年分	得田	易君
金壹圓	自大正三年度二ヶ年分	上島耕	治君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	吉田	貢君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	橋本喜久	三君
金貳圓	自大正三年度二ヶ年分	米村吉太	郎君
金壹圓	自大正三年度二ヶ年分	梅澤亮	吉君
金四圓	自大正三年度二ヶ年分	林	篤君
金參圓	自大正三年度二ヶ年分	柳瀨仁	三君
金壹圓	自大正三年度二ヶ年分	寺本義	一君

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

廣 告

●石川教授へ贈呈記念品贈金受領報告

第二回 (二月二十日迄) (三受領ノ分)

一金壹圓也	柳原茂樹殿	一金壹圓也	久高唯忠殿
一金壹圓也	佐々木純一郎殿	一金壹圓也	石譯太作殿
一金壹圓也	鈴木忍殿	一金壹圓也	高桑勇次郎殿
一金壹圓也	白木孝一殿	一金壹圓也	上木隆基殿
一金壹圓也	武田真海殿	一金壹圓也	中原重吉殿
一金壹圓也	太田垣道夫殿	一金壹圓也	平野郷治郎殿
一金壹圓五拾錢也	富田直殿	一金壹圓也	富田敦貴殿
一金壹圓也	烏飼尹重殿	一金壹圓也	山田幸吉殿
一金貳圓也	中川久成殿	一金壹圓也	正木芳隆殿
一金貳圓也	田中基保殿	一金壹圓也	平田一若殿
一金壹圓也	鈴木彌殿	一金壹圓也	青木市次郎殿
一金壹圓也	稻坂清八殿	一金壹圓也	長村吉冲殿
一金壹圓也	丹羽直殿	一金壹圓也	鈴木伊作殿
一金參圓也	進士愛太郎殿	一金壹圓也	吉田貢殿

一金壹圓五拾錢也 眞澤貞一殿 一金壹圓也 田中正一殿
一金壹圓也 清水憲策殿 一金壹圓也 井上只次殿
一金壹圓也 北村一清殿 一金壹圓也 柴田順三殿

一金壹圓也 堀井吉平殿 一金壹圓也 齊藤房治殿
一金壹圓也 眞館修平殿 一金壹圓也 宇佐美あや殿

一金壹圓也 南茂吉殿

一金參拾壹圓八拾錢也 醫學科第一年級諸君(百六名分)

一金貳拾七圓也 醫學科第二年級諸君(九〇名分)

一金貳拾九圓七拾錢也 醫學科第三年級諸君(九九名分)

一金貳拾四圓九拾錢也 醫學科第四年級諸君(八三名分)

計金百五拾七圓四拾錢

累計金貳百貳拾五圓四拾壹錢

一、醱金額ハ金壹圓以上ニ願度候

一、醱金ハ大三年三月末日迄ニ御送附願度候

一、醱金ハ振替貯金(大阪二五六一七番)或ハ郵便爲替ニテ御拂込ニ願度候

一、醱金ハ金澤醫學專門學校内佐口榮宛御送附願度候

一、領収書ハ別に發送致サス十全會雜誌ニテ發表致スベク候

一、贈呈ノ物品等ニ就テハ委員ニ御一任相願度候

●宮田教授へ贈呈ノ留學記念品
醱金受領報告

第一回 (一月三十一日迄ノ分)

一金七拾錢也	長久關一耶殿	一金五拾錢也	山村鏐二殿
一金五拾錢也	花岡佐太郎殿	一金壹圓也	高田信弘殿
一金壹圓也	清水義成殿	一金壹圓也	井上只次殿
一金壹圓也	佐藤祐造殿	一金壹圓也	杉山象次殿
一金壹圓也	國田武雄殿	一金壹圓也	吉尾開道殿
一金五拾錢也	松崎清博殿	一金壹圓也	中島喜作殿
一金壹圓也	永山昇一殿	一金五拾錢也	久高唯忠殿
一金壹圓也	木谷義太郎殿	一金壹圓也	日野信次殿
一金壹圓也	中西島吉殿	一金參圓也	三服梅吉殿
一金五拾錢也	北村一清殿	一金五拾錢也	田山退一殿
一金五拾錢也	萩野茂次殿	一金壹圓也	吉池省吾殿
一金五拾錢也	山角彙晏殿	一金五拾錢也	池田恒太郎殿
一金壹圓也	樋口平太郎殿	一金壹圓也	中村欣一殿
一金壹圓也	田中基保殿	一金五拾錢也	佐々木純一殿
一金五拾錢也	廣瀬竹次殿	一金五拾錢也	村本淳吉殿
一金壹圓也	横山鼎殿	一金壹圓五拾錢也	七五三龜吉殿
一金五拾錢也	原伊之殿	一金壹圓也	石澤太作殿
一金五拾錢也	武田良海殿	一金壹圓也	長井運男殿

一金壹圓也	上木隆基殿	一金貳圓也	杉田治十郎殿	一金壹圓也	高橋耕作殿	一金壹圓也	船橋金之助殿
一金五拾錢也	後藤義賢殿	一金五拾錢也	村山盛塞殿	一金壹圓也	上阪政太郎殿	一金壹圓也	萩野義次郎殿
一金五拾錢也	小池勇助殿	一金壹圓也	平野郷治郎殿	一金壹圓也	高田信弘殿	一金貳圓也	飯森益太郎殿
一金五拾錢也	今井篤殿	一金壹圓五拾錢也	表宣明殿	一金壹圓壹錢也	木谷義太郎殿	一金壹圓也	丹波橘二殿
一金壹圓也	大井良八郎殿	一金壹圓也	宮崎繁殿	一金壹圓也	石譯太作殿	一金壹圓也	松田卷耳殿
一金五圓也	川崎沅三殿	一金參圓也	細田殿	一金壹圓也	平野郷治殿	一金壹圓也	中川鯉太殿
一金參圓也	岡忍殿			一金參圓也	堀部良吉殿	一金貳圓也	正木芳隆殿
				一金壹圓也	金堂圓殿	一金壹圓也	中川久成殿
				一金壹圓也	後藤重彦殿	一金壹圓也	鈴木彌殿
				一金壹圓也	小島佐藏殿	一金壹圓也	越野義三郎殿
				一金壹圓也	館保二殿	一金壹圓也	田代保二殿
				一金壹圓也	淺井泰殿	一金壹圓也	稻坂清八殿
				一金壹圓也	小野醇吉殿	一金壹圓也	橋本喜久三殿
				一金壹圓也	進士愛太郎殿	一金壹圓也	清水憲策殿
				一金壹圓也	佐藤進殿	一金壹圓也	小林秀隆殿
				一金壹圓也	宇野正殿	一金貳圓也	圓山万三郎殿
				一金壹圓也	北村一清殿	一金壹圓也	堀井吉平殿
				一金壹圓也	齊藤房治殿	一金壹圓也	松田研吉殿
				一金壹圓也	石坂直次郎殿	一金壹圓也	本田三郎殿
				一金壹圓也	三木三郎殿	一金壹圓也	加藤嶽作殿
				一金壹圓也	森茂殿	一金壹圓也	吉田貢殿
				一金壹圓也	平井義清殿		

計金五拾壹圓七拾錢

●高山教授勤續二十年祝賀會寄附金

(二月二十四日マテ受入ノ分)

一金貳圓也	住山伊衛殿	一金壹圓也	田中幸吉殿	一金壹圓也	淺井泰殿	一金壹圓也	稻坂清八殿
一金五圓也	樋下田鎌次郎殿	一金壹圓也	吉野新八殿	一金壹圓也	小野醇吉殿	一金壹圓也	橋本喜久三殿
一金貳圓也	澁谷十郎殿	一金壹圓也	宮川一雄殿	一金壹圓也	進士愛太郎殿	一金壹圓也	清水憲策殿
一金壹圓也	大田彦八殿	一金貳圓也	割石貞二殿	一金壹圓也	佐藤進殿	一金壹圓也	小林秀隆殿
一金壹圓也	寶達佐市殿	一金壹圓也	武內増藏殿	一金壹圓也	宇野正殿	一金貳圓也	圓山万三郎殿
一金貳圓也	島田民藏殿	一金壹圓也	池田菱吉殿	一金壹圓也	北村一清殿	一金壹圓也	堀井吉平殿
一金壹圓也	島誠郁殿	一金參圓也	中橋末吉殿	一金壹圓也	齊藤房治殿	一金壹圓也	松田研吉殿
一金壹圓也	神田興敬殿	一金壹圓五拾錢也	松王數男殿	一金壹圓也	石坂直次郎殿	一金壹圓也	本田三郎殿
一金壹圓也	鳥飼尹重殿	一金壹圓也	久津木勝作殿	一金壹圓也	三木三郎殿	一金壹圓也	加藤嶽作殿
一金參圓也	溝口成幸殿	一金壹圓也	臼井順太郎殿	一金壹圓也	森茂殿	一金壹圓也	吉田貢殿
一金壹圓也	吉田實殿	一金壹圓也	谷中正勝殿	一金壹圓也	平井義清殿		